

研究課題名	閉塞性腎盂腎炎：多施設共同後向き研究
研究実施機関名および研究責任者	さいたま赤十字病院 泌尿器科部長 野呂 彰
研究代表施設および代表研究者	東京医科歯科大学医学部附属病院 腎泌尿器外科 教授 藤井 靖久
研究期間	2019年5月22日から2023年3月31日
研究の目的と意義	<p>【1. 研究の背景と実施の意義・必要性】</p> <p>閉塞性腎盂腎炎は結石や腫瘍による尿路の閉塞を伴う深刻な尿路感染症で、ICU 管理や長期入院が必要になることも多くあります。また、その死亡率は約 2%と高いです。</p> <p>敗血症（感染による臓器機能不全）の指標としては SOFA スコアや qSOFA が用いられていますが、閉塞性腎盂腎炎症例において、それらと治療アウトカムとの関連は十分に検証されているとはいえません。また、閉塞性腎盂腎炎の治療アウトカムの予測に有用な臨床因子はこれまでに十分に探索されているとはいえません。</p> <p>【2. 研究の目的】</p> <p>本研究では、閉塞性腎盂腎炎症例において、SOFA スコア及び qSOFA スコアなどの新しい敗血症の指標と治療アウトカムとの関連を明らかにすること、また、閉塞性腎盂腎炎の治療アウトカムの予測に有用な臨床因子を明らかにすることを目標とします。</p>
本研究の対象となる方	2008年11月1日から2018年10月31日までの間に、さいたま赤十字病院において、診断治療された閉塞性腎盂腎炎症例
提供していただく情報	対象患者の診療録より得られる年齢、性別、身長・体重、既往歴・合併症、Performance status、SIRS（体温、心拍数、呼吸数または PaCO ₂ 、白血球数または未熟顆粒球数）、SOFA スコア（PaO ₂ /FiO ₂ 、血小板数、ビリルビン、血圧、Glasgow Coma Scale、クレアチニン及び尿量）、qSOFA スコア（呼吸数、意識レベル、血圧）、採血データ（Hb、白

	<p>血球数、アルブミン、CRP、カルシウム、クレアチニン、乳酸など)、尿管結石、治療方法(抗生剤、昇圧剤、ドレナージなど)、入院期間、ICU管理、予後・転帰(死亡、療養型病院やナーシングホームなどへの転院など)などの臨床情報を集計する。全ての診療は通常診療として施行されたものであり、また、本研究のために追加の検査は施行しない。</p>
研究内容	多施設共同後ろ向き研究
個人情報の取り扱い	<p>研究対象者のプライバシー保護のため、個々の研究対象者の識別には研究対象者識別コードを用い、研究対象者の個人情報を保護する。他施設で解析する場合であっても、研究対象者の個人を特定するような情報は提供されない。研究結果を公表する場合であっても、研究対象者の身元を特定できる情報は保護する。</p>
問い合わせ先	<p>所属：さいたま赤十字病院 泌尿器科部長 氏名：野呂 彰 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 電話：048-852-1111</p>